

5 子どもの学習、教育環境

1 全体的な特徴

(1) 通学意欲について

「学校に行くのは楽しみですか」という通学意欲に関する質問には、小学5年生は全体で33.8%の児童が「とてもそう思う」と回答しているが、生活困難層は31.4%と、やや低い割合であった。非生活困難層の同じ回答が34.0%だったのと比較すると、2.6ポイント低かった。中学2年生では、同様の質問に対し、全体で31.5%の生徒が「とてもそう思う」と回答しているが、生活困難層に限定すると28.8%と、やや低い割合であった。非生活困難層が31.8%だったことと比較すると3ポイント低かった。(図表5-1, 5-1-1)

また、生活困難層は通学することが楽しみだとは「思わない」という回答が、小学5年生の6.0%から中学2年生の8.3%へと増加し、2.3ポイント上昇している。非生活困難層は4.9%(小学5年生)から5.3%(中学2年生)へと増加はするものの、わずか0.4ポイントの上昇である。つまり学年が上がるに従って、生活困難層の方が、通学意欲が低下する児童等が増える傾向があると言える。(図表5-1-1)

(2) 調べものや本、ネットに関する生活困難層の特徴

「興味のあることを本やネットなどで調べること」という質問に対しては、「調べない」と回答した児童等を学年別にみていくと、興味深い結果となった。小学2年生では、「みない(いいえ)」と回答した児童の割合が、生活困難層45.5%、非該当層38%で7.5ポイントの差がある。(図表5-4-2)

集計方法が異なるものの、小学5年生では3.9ポイントの差であるが、中学2年生では0.4ポイントの差で、小学5年生から中学2年生にかけて、ほとんど差がなくなる。(図表5-4-3)

しかも興味深いことに、「よく調べる」と回答した中学2年生は、生活困難層が38.0%、非生活困難層が37.0%であった。つまり生活困難層の方が、本やネットでよく調べる生徒の割合が1ポイント高い。(図表5-4-3)

この結果は、携帯電話・スマートフォンの所持率を反映しているとも考えられる。携帯電話・スマートフォンの所持率は、中学2年生の生活困難層が73.4%なのに対し、非生活困難層は69.9%で、生活困難層の方が携帯電話・スマートフォンを所持している割合が3.5ポイント高かった。(図表1-1-1-5-1)

一方、読書に関して、この1か月に全く本を読まなかった児童等の割合をみると、小学5年生では、生活困難層14.9%、非生活困難層10.3%であった。(図表5-5-1)

中学2年生では、生活困難層は13.2%、非生活困難層は11.7%であった。(図表5-5-1)

生活困難層の方が小学5年生、中学2年生ともに非生活困難層と比較して高い割合で「読まなかった」と回答している。さらに、生活困難層は小学5年生より中学2年生の方が低い割合であり、非生活困難層の方は小学5年生より中学2年生の割合が高くなっている。つまり全く読まない割合は、生活困難層は小学5年生に対して中学2年生は1.7ポイント減少し、非生活困難層は1.4ポイントの増加であった。

(3) 放課後の勉強や学習

小学5年生と中学2年生を対象とした質問「学校から帰宅後の各行動にかかる時間」では、子どもたちの学習に取り組む時間を読み取ることができる。「勉強や宿題をまったくしない」と回答した子どもは、生活困難層は8.3%、中間層は5.5%、非該当層は4.1%であった。生活困難層が非該当層と比較して4.2ポイント高い。つまり、生活困難層の方が全く勉強や宿題をしない割合が高いことがうかがえる。(図表3-2-1)

小学5年生と中学2年生を対象とした質問「授業の準備」においては、この割合の差はさらに大きくなっている。「よくできる」と回答した児童等は、生活困難層が29.1%、中間層が32.2%、非該当層36.8%

である。生活困難層と非該当層を比較すると、生活困難層の方が7.7ポイント低い結果となった。(図表 5-2-1)

生活困難層の子どもたちが、帰宅後どのようなことに時間を使っている傾向があるのかを考察する。帰宅後の行動で、「まったくしない」と回答した割合が、生活困難層より非該当層の方が上回ったものを抽出すると、次の3つであった。①パソコン・スマホでインターネットやゲームをする。(図表 3-2-5) ②公園や校庭で体を動かす。(図表 3-2-6) ③ゲームセンターやカラオケなどで遊ぶ。(図表 3-2-10) 最も差があったのは、パソコン・スマホでインターネットやゲームをすることであった。「パソコン・スマホでインターネットやゲームをする」という質問に1時間以上すると回答した小学5年生と中学2年生の児童等は、生活困難層が55.3%、中間層49.6%、非該当層45.1%であった。つまり、非該当層よりも生活困難層の方が10.2ポイント高い。(図表 3-2-5)

こうした生活状況の背景には、教育費が関係していることが予想される。放課後の行動において、生活困難層と非該当層の間で、「まったくしない」という回答に最も差があり、生活困難層の方が高い割合だったのは、習い事(スポーツ・音楽・習字・英語など)で22.6%。(図表 3-2-7)

次が学習塾で18.5%であった。生活困難層の約72.8%が学習塾には全く行かないのに対して、非該当層は54.3%であった。(図表 3-2-8)

(まとめ)

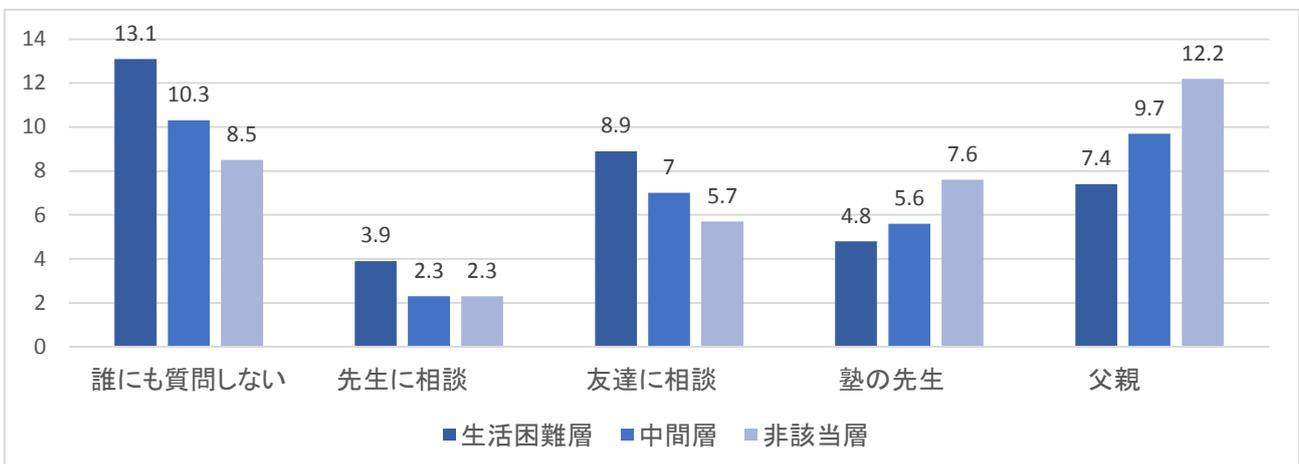
生活困難層は学習塾に行く割合が低い、携帯電話・スマートフォンの所持率は小学5年生から中学2年生にかけて高くなり、中学2年生では非該当層より高い割合で所持している。従って、インターネットやゲームをする割合も高くなり、中学2年生では、本やネットで調べものをする割合も生活困難層の方が高い。しかし、授業の準備についてはよくする割合は低く、学校への通学を楽しみと思えない児童等の割合も増え、中学2年生では9%近くの生徒が通学することを楽しいとは思わないと感じている。

2 学習へのサポートに関して

(1) 学習へのサポート ①相談相手の特徴

図1に示したように、勉強の不明点があった場合の相談についての回答を見ると、生活困難層は誰にも質問しない割合が高いが、学校の先生と友達に相談する割合は相対的に高い。非該当層は父親、塾の先生に相談する割合が相対的に高いことが特徴である。(図表 5-3-1 より作成)

図1 小5・中2 勉強の不明点の相談者



(2) 学習へのサポート ②学習へのきっかけをつくるためのポイント

「あなたが頑張っていることは何ですか」という質問に対する小学5年生と中学2年生の回答は、生活困難層と非該当層がほぼ同じ割合だったものが、「趣味」と「部活」(中学2年生のみ)、差があったものが「学校での勉強」と「(部活以外の)スポーツや習い事」であった。(図表 5-6-1, 5-6-2)

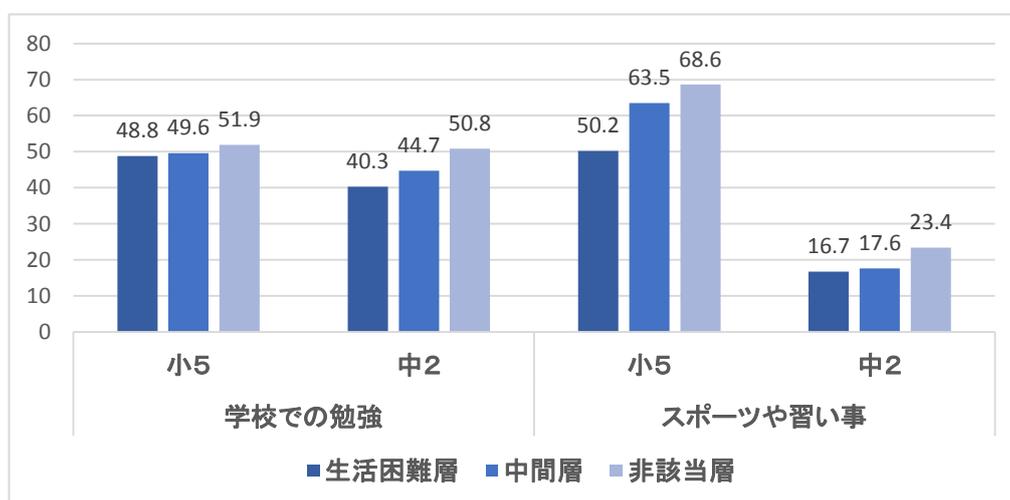
また、小学5年生と中学2年生で、「学校での勉強」と「スポーツや習い事(中学2年生は部活を除く)」を比較すると図2のようになる。(図表 5-6-1, 5-6-2 より作成)

小学5年生の段階で、学校での勉強を頑張っていると回答した児童は、生活困難層は50%以下であり、非該当層との差は-3ポイント以上ある。この差は中学2年生で-10.5ポイントの差に広がっている。

また、スポーツや習い事をがんばっていると回答した生活困難層の児童等も、小学5年生の段階で50%をわずかに超えるものの、非該当層との差は-18.4ポイントで、学校での勉強以上に大きな差がある。中学2年生は部活がはじまり、どの層も割合は低いが、非該当層の割合が相対的に高く、生活困難層の割合は、他の「がんばっていること」と比較して相対的に高く、非該当層との差も-0.3ポイントである。

(図表 5-6-1, 5-6-2)

図2 小5・中2 今がんばっていること



(まとめ)

以上の結果から、生活困難層の児童等への学習に関するサポートを考えるヒントが見えてくる。生活困難層に比べ、非該当層が父親や塾に相談する割合が高いのに対し、図1に見られるように、先生や友達に相談する割合が高いのが生活困難層の特徴である。また、非該当層がスポーツや習い事でがんばっていると回答した割合が高いのに対して、部活には生活困難層と非該当層との間に差がない。生活困難層の生徒にとって、部活動は学校生活における重要な活動の場になっており、学校での勉強に取り組むきっかけになるとも考えられる。このような結果から考えると、学校をプラットフォームとした学習への支援を具体化するために、部活を上手に活用することが有効だという仮説が成り立つ。

平成26年8月に閣議決定された「子供の貧困対策に関する大綱」には、「教育の支援」として「『学校』をプラットフォームとした総合的な子供の貧困対策の展開」が示されている。具体的には「少人数の習熟度別指導や、放課後補習などの取組を行うため、教職員等の指導体制を充実し、きめ細かな指導を推進する」といった内容である。それに加え、生活困難層の児童等が非該当層の児童等と同等の割合で頑張っている「部活」に焦点を当てた支援も有効ではないかという仮説が見えてくる。

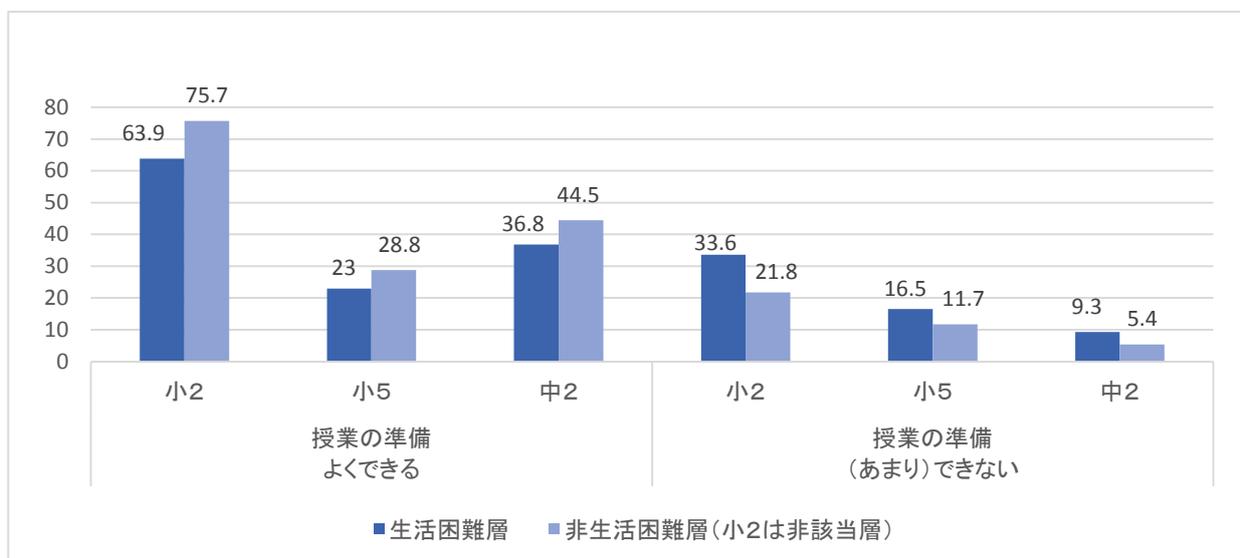
3 経済的格差を埋めるための学習支援を考える

(1) 学習状況と学習塾

学習への取り組み状況について、授業準備状況についての回答から考察してみたい。授業の準備についての質問に対する回答を、学年・生活困難層別に整理すると、図3のようになる。

(図表 5-2-1, 5-2-2, 5-2-3 より作成。ただし小学2年生は3階層分類、小学5年生と中学2年生は2階層分類)

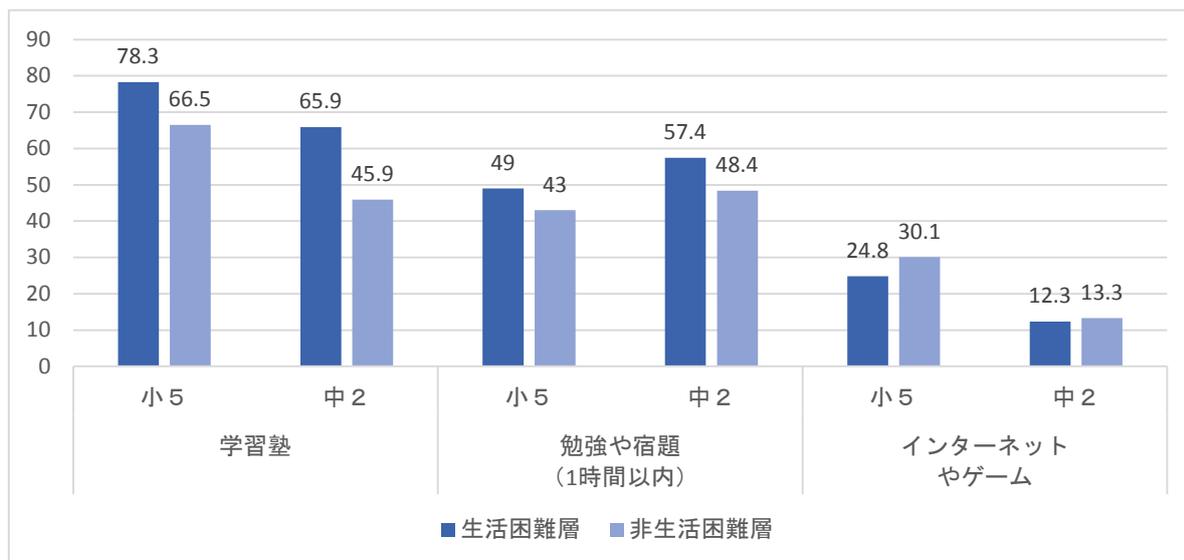
図3 小2・小5・中2 授業の準備状況



授業準備がよくできる（小学2年生は、できる）と回答した児童等は、小学2年生の段階では、生活困難層と非該当層で11.8ポイントの差があり、非該当層の方が高い割合である。小学5年生と中学2年生についても、生活困難層と非生活困難層の差は、小学5年生で5.8ポイント、中学2年生で7.7ポイント非生活困難層の方が高い割合である。小学2年生と小学5年生を比較すると、年齢が上がるに従って差は小さくなると推測することが可能になる。同様に、小学5年生と中学2年生を比較すると、年齢が上がるに従って差が大きくなると推測することができる。つまり、小学2年生の段階で、すでに生活困難層と非該当層の差があり、その差は中学2年生まで継続するという結果となった。ポイントになるのは、小学2年生、つまり小学校低学年段階での、生活困難層の児童等に対する学習への支援だという側面が見えてくる。この段階で生活困難層と非該当層との間で11.8ポイントの差があることに注目したい。小学2年生の児童本人の回答であることを考えると、このことは自己肯定感も背景にあるとも考えられる。つまり、授業の準備ができない、準備の自信がないと感じている児童の割合が多いとも言える。「子どもと人とのかかわりの様子」では、小学2年生の児童には、ある特徴があった。「友達に好かれていると思う」という質問に「まったく思わない」「あまり思わない」と回答した児童は、生活困難層13.3%、非該当層6.4%で、6.9ポイントの差があった。「学校の先生からよいところを認められている」という質問には、同様の回答が生活困難層15.9%非該当層10.8%で、5.1ポイントの差があった。友達や先生から認められていないという気持ちが、授業準備の自信のなさに関連している可能性も考えられる。(図表 4-2-3-2, 4-2-3-5)

先に「1 全体的な特徴：(3)放課後の勉強や学習」で考察した内容を、学年別、生活困難層別に分類したのが図4である。(図 3-2-1-1, 3-2-5-1, 3-2-8-1 より作成)

図4 小5・中2 放課後全くしていないこと



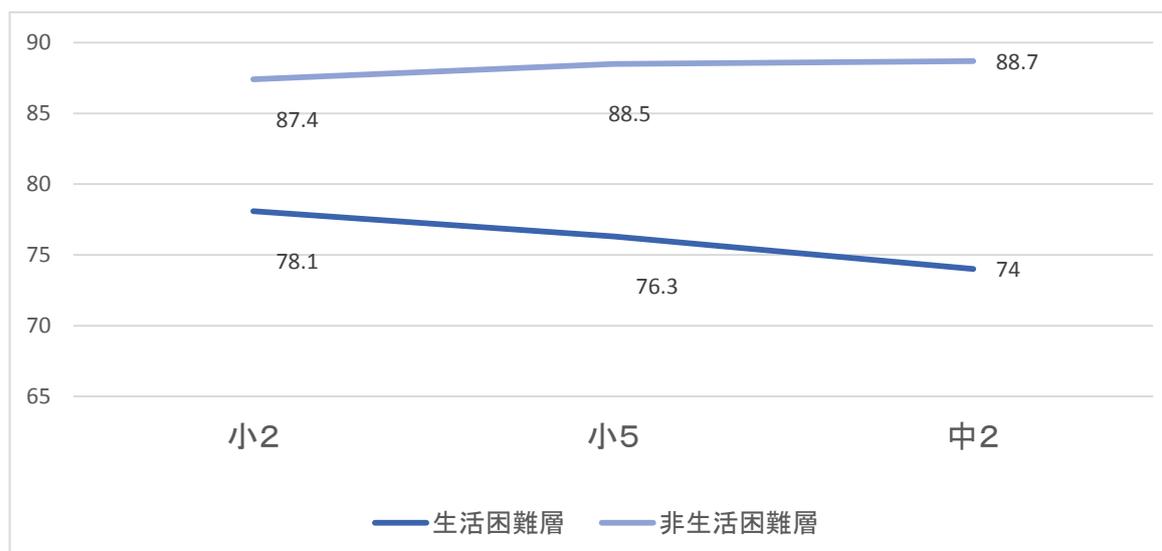
小学5年生と中学2年生の放課後の活動と活動時間に関する質問で、学習塾に全く行っていない児童等の割合と、放課後の勉強や宿題に取り組む時間が1時間以下あるいは全くしていない児童等の割合、インターネットやゲームは全くしない児童等の割合を生活困難層と非生活困難層で比較したものである。

学習塾を全く利用しないという割合は、生活困難層と非生活困難層を比較すると、小学5年生でも中学2年生でも生活困難層の方が高い。また、その差は小学5年生より中学2年生の方が大きく、小学5年生の11.8ポイントの差から20ポイントへと増加している。それに合わせて、放課後の勉強時間も1時間以内の児童等の割合は生活困難層の方が両学年とも高く、小学5年生の差は6ポイントであるが、中学2年生では9ポイントに広がっている。生活困難層の児童等が全くしない項目で、非生活困難層より両学年とも低い割合だったのが、「パソコン・スマホでインターネットやゲームをする」ことであった。これについては、小学5年生で5.3ポイントの差があるが、中学2年生では1ポイントの差に縮まる。それでも、生活困難層の方が全くしないという割合が相対的には低い。塾に行かず、勉強をする割合は低い、インターネットやゲームをする割合は、非生活困難層に比べ、相対的に高いという生活の様子が見えてくる。

(2) 勉強環境の二面性

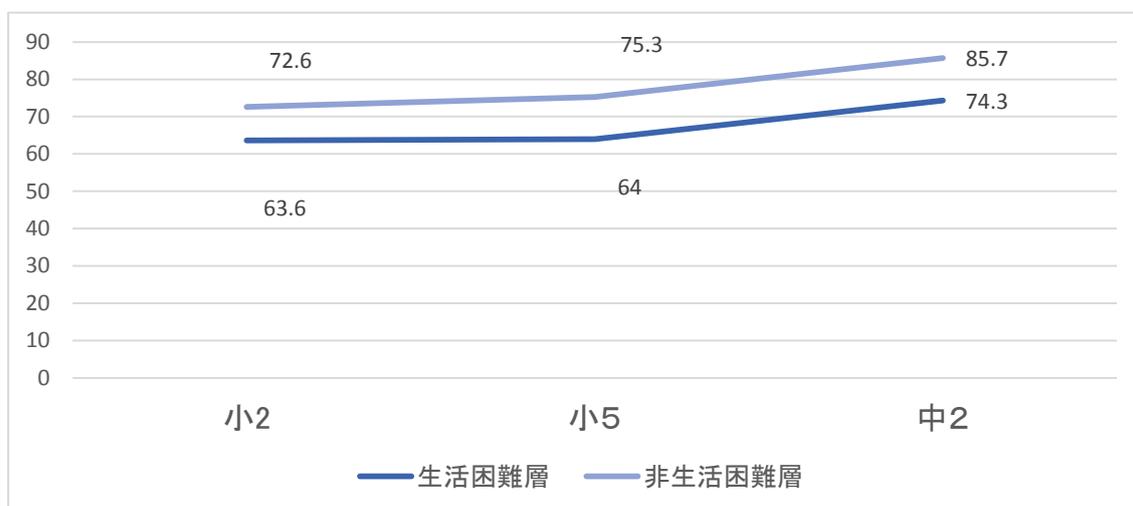
子どもの「勉強環境」に関する質問に対し、「ある」と回答した保護者の割合は、図5のように、生活困難層と非生活困難層の間に差があり、全学年を通じて生活困難層の割合は非生活困難層を下回った。すでに小学2年生の段階で9.3ポイントの差があり、小学5年生で12.2、中学2年生で14.7ポイントと、年齢が上がるに従って差が大きくなっていく。(図表5-7-1より作成)

図5 小2・小5・中2 勉強する環境が「ある」(小2のみ保護者)



一方で、やや異なる様子を示すデータも見出すことができた。図6は、自分が使う部屋があるかどうかという質問に対して、「ある」と回答した割合を小学2年生、小学5年生、中学2年生で比較したものである。小学2年生は保護者が回答し、小学5年生と中学2年生は児童等本人が回答した結果である。(図表1-1-1-3-1より作成)

図6 小2・小5・中2 自分が使う部屋がある



生活困難層と非生活困難層との間には、はっきりとした差があり、全学年を通じて生活困難層の割合が下回る。しかしながら、その差は年齢が上がってもそれほど広がらず、2つの層ともに「ある」と回答した割合は上昇している。自分が使う部屋が、勉強のためという目的だけではないので、学習環境を整えようとする傾向が見られるとは言えないが、生活困難層では思春期を迎えた子どもの部屋を確保することに努力している様子が見える。

(まとめ)

あくまで相対的なことであるが、生活困難層は、授業の準備はあまり上手にできておらず、放課後の勉強や宿題への取組時間が1時間以下あるいは全くしていない割合が高い。その一方で、ネットやゲー

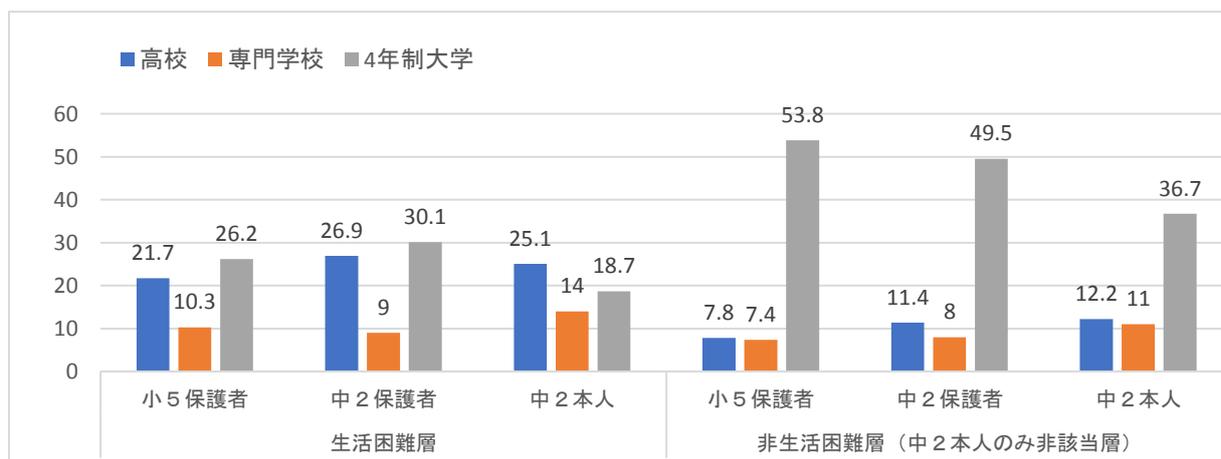
ムに関しては時間を割いている可能性が見えてくる結果となった。

学習塾を全く利用しないという割合も生活困難層の方が高く、小学5年生から中学2年生にかけて非該当層との差が広がっている。さらに、勉強環境についても差が広がっていく。このような様子から、インターネットやゲームとの付き合い方を学び、学習習慣をつくるのがポイントになるという点が示唆された。特に中学2年生では、自分で使う部屋を持っている割合が、2つの層間の差は広がらず、生活困難層でも自分の部屋を持つ割合が上昇している。生活困難層では、勉強環境は低下するのに、自分の部屋を持つ割合は増えるという傾向があった点は特徴となる。従って、時期的な視点でまとめると、第1に小学2年生、つまり小学校低学年段階での、生活困難層の児童等に対する授業準備への支援が必要だと考えられる。第2に中学入学後に、自分の部屋の使い方を含めた、勉強環境を整えるための支援が必要だと考えられる。

4 希望する進学段階

希望する進学段階には、生活困難層別に見た場合、明らかな差があった。図7は、小学5年生と中学2年生保護者と中学2年生本人の希望から、高校、専門学校、4年制大学を選択したものである。(図表5-8-1, 5-9より作成)

図7 小2・小5・中2 希望する進学段階の比較



(この図は、保護者に関しては「生活困難層」と「非生活困難層」の2階層区分で集計した図表5-8-1を用い、中学2年生本人に関しては「生活困難層」「中間層」「非該当層」の3階層区分で集計した図表5-9を用いている。)

中学2年生本人を見ると、高校までを希望する割合が、生活困難層は25.1%、非該当層は12.2%で、生活困難層と非該当層の間には12.9ポイントの差があり、生活困難層の方が高い。4年制大学は、生活困難層は18.7%、非該当層は36.7%で18ポイント非該当層の方が高く、大きな差が見られた。

小学5年生と中学2年生の保護者の回答は、生活困難層と非生活困難層ともに、それぞれに類似した割合構成である。生活困難層では、小学5年生、中学2年生ともに4年制大学への進学希望が最も高いが、他の希望段階と比較して突出しているわけではない。高校段階を希望する保護者の割合を、4年制大学を希望する保護者の割合と比較すると、小学5年生で-4.5ポイント、中学2年生で-3.2ポイントの差であった。一方、非該当層の保護者は4年制大学を希望する割合が突出している。高校段階を希望する保護者の割合との差は、小学5年生で+46ポイント、中学2年生で+38.1ポイントと大きな開きがある。ただし、中学2年生ではその差は縮まっている。

全体を俯瞰して目を引くのは、中学2年生の本人の回答である。その特徴は、希望割合の順位中第1位が4年制大学ではなく高校である点で、これは保護者の希望とも異なる割合構成になっている。

(まとめ)

希望する進学段階には、生活困難層別に見ると、構成割合には明らかな差がある。また、中学2年生段階で、生活困難層の生徒本人の希望割合第1位が高校であることの要因や背景は今後詳細な調査、検討が必要だと思われる。これは、経済状況を踏まえての希望なのか、本人の進学意欲に関するものなのか、または早期に自立した社会人となるための選択なのか等々、今回の調査では分からなかった。ただし、生活困難層の中学2年生本人が、専門学校を希望した割合は14%であった。相対的には高い割合であり、高等学校卒業後の教育環境の整備が重要な課題であることが示唆された。生活困難層に対しては、進学への支援とともに、高校段階の就職支援や、高校卒業後の学習支援を充実させる方策等、多面的で総合的な支援の在り方を検討することが課題となる。

学校に行くのは楽しみですか。

(小学2年生 小学5年生 中学2年生 小学2年生保護者 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

図表5-1 通学することが楽しみ

単位	上段：世帯 下段：%	調査数	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	無回答
全体		14,868 100.0	4,875 32.8	6,470 43.5	2,226 15.0	783 5.3	514 3.5
子どもの年齢	小学5年生	8,439 100.0	2,852 33.8	3,614 42.8	1,169 13.9	424 5.0	380 4.5
	中学2年生	6,429 100.0	2,023 31.5	2,856 44.4	1,057 16.4	359 5.6	134 2.1
生活困難層別	生活困難層	1,439 100.0	435 30.2	595 41.3	256 17.8	101 7.0	52 3.6
	中間層	3,502 100.0	1,091 31.2	1,531 43.7	564 16.1	184 5.3	132 3.8
	非該当層	9,927 100.0	3,349 33.7	4,344 43.8	1,406 14.2	498 5.0	330 3.3
世帯累計別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	590 100.0	184 31.2	235 39.8	109 18.5	42 7.1	20 3.4
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	964 100.0	292 30.3	416 43.2	156 16.2	58 6.0	42 4.4
	その他の世帯	13,314 100.0	4,399 33.0	5,819 43.7	1,961 14.7	683 5.1	452 3.4

図表5-1-1 通学することが楽しみ (小5・中2 生活困難層別)

(単位)	上段：世帯 下段：%)	調査数	とても そう思う	そう 思う	あまり 思わない	思わ ない	無回 答
子どもの年齢×生活困難層	小学5年生の生活困難層	797 100.0	250 31.4	322 40.4	133 16.7	48 6.0	44 5.5
	小学5年生の非生活困難層	7,642 100.0	2,602 34.0	3,292 43.1	1,036 13.6	376 4.9	336 4.4
	中学2年生の生活困難層	642 100.0	185 28.8	273 42.5	123 19.2	53 8.3	8 1.2
	中学2年生の非生活困難層	5,787 100.0	1,838 31.8	2,583 44.6	934 16.1	306 5.3	126 2.2

学校の授業で使うものを忘れずに準備できますか。

(小学2年生 小学5年生 中学2年生 小学2年生保護者 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

図表 5-2-1 授業の準備 (小5・中2)

単位	上段：世帯 下段：%	調査数	よくできる	だいたいできる	あまりできない	できない	無回答
全 体		14,868 100.0	5,196 34.9	7,770 52.3	1,221 8.2	166 1.1	515 3.5
子 ど も の 年 齢	小学5年生	8,439 100.0	2,382 28.2	4,651 55.1	900 10.7	119 1.4	387 4.6
	中学2年生	6,429 100.0	2,814 43.8	3,119 48.5	321 5.0	47 0.7	128 2.0
生 活 困 難 層 別	生活困難層	1,439 100.0	419 29.1	777 54.0	167 11.6	24 1.7	52 3.6
	中間層	3,502 100.0	1,126 32.2	1,875 53.5	310 8.9	60 1.7	131 3.7
	非該当層	9,927 100.0	3,651 36.8	5,118 51.6	744 7.5	82 0.8	332 3.3
世 帯 累 計 別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	590 100.0	173 29.3	322 54.6	66 11.2	9 1.5	20 3.4
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	964 100.0	292 30.3	519 53.8	97 10.1	16 1.7	40 4.1
	その他の世帯	13,314 100.0	4,731 35.5	6,929 52.0	1,058 7.9	141 1.1	455 3.4

図表 5-2-2 授業の準備 (小2)

単位	上段：世帯 下段：%	調査数	できる (はい)	できない (いいえ)	無回答
全 体		4,806 100.0	3,579 74.5	1,110 23.1	117 2.4
生 活 困 難 層 別	生活困難層	429 100.0	274 63.9	144 33.6	11 2.6
	中間層	1,228 100.0	921 75.0	279 22.7	28 2.3
	非該当層	3,149 100.0	2,384 75.7	687 21.8	78 2.5
世 帯 累 計 別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	151 100.0	98 64.9	49 32.5	4 2.6
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	222 100.0	166 74.8	53 23.9	3 1.4
	その他の世帯	4,433 100.0	3,315 74.8	1,008 22.7	110 2.5

図表 5-2-3 授業の準備 (小5・中2 生活困難層別)

(単位	上段：世帯 下段：%)	調査数	よくでき る	だいた いできる	あま りでき ない	でき ない	無回 答
子 ど も の 年 齢 × 生 活 困 難 層	小学5年生の生活困難層	797 100.0	183 23.0	438 55.0	116 14.6	15 1.9	45 5.6
	小学5年生の非生活困難層	7,642 100.0	2,199 28.8	4,213 55.1	784 10.3	104 1.4	342 4.5
	中学2年生の生活困難層	642 100.0	236 36.8	339 52.8	51 7.9	9 1.4	7 1.1
	中学2年生の非生活困難層	5,787 100.0	2,578 44.5	2,780 48.0	270 4.7	38 0.7	121 2.1

家で勉強していてわからないとき、誰に質問をしますか。

(小学2年生 小学5年生 中学2年生 小学2年生保護者 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

図表 5-3-1 勉強の不明点の相談者 (小5・中2)

単位	上段：世帯 下段：%	調査数	お父さん	お母さん	兄弟姉妹	学校の先生	塾の先生	友 達	その他	誰にも 質問 しない	無回答
全 体		14,868 100.0	1,655 11.1	6,177 41.5	1,260 8.5	388 2.6	1,015 6.8	935 6.3	489 3.3	1,393 9.4	1,556 10.5
年 齢 子 ど も の	小学5年生	8,439 100.0	1,101 13.0	4,813 57.0	593 7.0	92 1.1	149 1.8	142 1.7	256 3.0	579 6.9	714 8.5
	中学2年生	6,429 100.0	554 8.6	1,364 21.2	667 10.4	296 4.6	866 13.5	793 12.3	233 3.6	814 12.7	842 13.1
生 活 困 難 層 別	生活困難層	1,439 100.0	107 7.4	530 36.8	147 10.2	56 3.9	69 4.8	128 8.9	70 4.9	188 13.1	144 10.0
	中間層	3,502 100.0	338 9.7	1,470 42.0	305 8.7	101 2.9	195 5.6	246 7.0	145 4.1	362 10.3	340 9.7
	非該当層	9,927 100.0	1,210 12.2	4,177 42.1	808 8.1	231 2.3	751 7.6	561 5.7	274 2.8	843 8.5	1,072 10.8
世 帯 累 計 別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	590 100.0	6 1.0	252 42.7	53 9.0	22 3.7	31 5.3	45 7.6	37 6.3	89 15.1	55 9.3
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	964 100.0	16 1.7	396 41.1	88 9.1	29 3.0	75 7.8	63 6.5	73 7.6	115 11.9	109 11.3
	その他の世帯	13,314 100.0	1,633 12.3	5,529 41.5	1,119 8.4	337 2.5	909 6.8	827 6.2	379 2.8	1,189 8.9	1,392 10.5

図表 5-3-2 家族と一緒に勉強すること (小2)

単位	上段：世帯 下段：%	調査数	する (はい)	しない (いいえ)	無回答
全 体		4,806 100.0	3,568 74.2	1,146 23.8	92 1.9
生 活 困 難 層 別	生活困難層	429 100.0	302 70.4	122 28.4	5 1.2
	中間層	1,228 100.0	908 73.9	298 24.3	22 1.8
	非該当層	3,149 100.0	2,358 74.9	726 23.1	65 2.1
世 帯 累 計 別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	151 100.0	105 69.5	45 29.8	1 0.7
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	222 100.0	166 74.8	52 23.4	4 1.8
	その他の世帯	4,433 100.0	3,297 74.4	1,049 23.7	87 2.0

何か興味のあることを本や図鑑、辞書、インターネットを使って調べますか。

(小学2年生 小学5年生 中学2年生 小学2年生保護者 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

図表 5-4-1 興味のあることを本やネットなどで調べること (小5・中2)

単位	上段：世帯 下段：%	調査数	よく調べる	ときどき 調べる	あまり 調べない	調べない	無回答
全 体		14,868 100.0	4,363 29.3	6,910 46.5	2,319 15.6	1,030 6.9	246 1.7
年 齢 子 ど も の	小学5年生	8,439 100.0	1,979 23.5	3,954 46.9	1,624 19.2	733 8.7	149 1.8
	中学2年生	6,429 100.0	2,384 37.1	2,956 46.0	695 10.8	297 4.6	97 1.5
生 活 困 難 層 別	生活困難層	1,439 100.0	411 28.6	647 45.0	230 16.0	129 9.0	22 1.5
	中間層	3,502 100.0	990 28.3	1,621 46.3	580 16.6	266 7.6	45 1.3
	非該当層	9,927 100.0	2,962 29.8	4,642 46.8	1,509 15.2	635 6.4	179 1.8
世 帯 累 計 別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	590 100.0	183 31.0	252 42.7	98 16.6	48 8.1	9 1.5
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	964 100.0	337 35.0	422 43.8	139 14.4	52 5.4	14 1.5
	その他の世帯	13,314 100.0	3,843 28.9	6,236 46.8	2,082 15.6	930 7.0	223 1.7

図表5-4-2 調べもので本やネットをみること（小2）

単位	上段：世帯 下段：%	調査数	みる (はい)	みない (いいえ)	無回答
全体		4,806 100.0	2,787 58.0	1,936 40.3	83 1.7
生活困難層別	生活困難層	429 100.0	230 53.6	195 45.5	4 0.9
	中間層	1,228 100.0	658 53.6	543 44.2	27 2.2
	非該当層	3,149 100.0	1,899 60.3	1,198 38.0	52 1.7
世帯累計別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	151 100.0	86 57.0	65 43.0	- -
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	222 100.0	127 57.2	90 40.5	5 2.3
	その他の世帯	4,433 100.0	2,574 58.1	1,781 40.2	78 1.8

図表5-4-3 興味のあることを本やネットなどで調べること（小5・中2 生活困難層別）

(単位	上段：世帯 下段：%)	調査数	よく調べる	ときどき 調べる	あまり 調べない	調べない	無回答
子どもの年齢×生活困難層	小学5年生の生活困難層	797 100.0	167 21.0	352 44.2	164 20.6	97 12.2	17 2.1
	小学5年生の非生活困難層	7,642 100.0	1,812 23.7	3,602 47.1	1,460 19.1	636 8.3	132 1.7
	中学2年生の生活困難層	642 100.0	244 38.0	295 46.0	66 10.3	32 5.0	5 0.8
	中学2年生の非生活困難層	5,787 100.0	2,140 37.0	2,661 46.0	629 10.9	265 4.6	92 1.6

あなたは、この一か月に本（教科書やマンガ・雑誌以外の本）を何冊くらい読みましたか。

※ 自宅以外で読んだ本も数えてください。

※ パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本（電子書籍）も数えてください。

(小学2年生 小学5年生 中学2年生 小学2年生保護者 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

図表5-5 この一か月に読んだ本の数

単位	上段：世帯 下段：%	調査数	読まな かった	1冊	2~3冊	4~5冊	6~7冊	8~11冊	12冊 以上	無回答
全体		14,868 100.0	1,668 11.2	2,667 17.9	4,245 28.6	2,075 14.0	1,106 7.4	920 6.2	1,942 13.1	245 1.6
子どもの年齢	小学5年生	8,439 100.0	907 10.7	1,057 12.5	1,999 23.7	1,324 15.7	817 9.7	701 8.3	1,483 17.6	151 1.8
	中学2年生	6,429 100.0	761 11.8	1,610 25.0	2,246 34.9	751 11.7	289 4.5	219 3.4	459 7.1	94 1.5
生活困難層別	生活困難層	1,439 100.0	204 14.2	289 20.1	430 29.9	157 10.9	83 5.8	89 6.2	165 11.5	22 1.5
	中間層	3,502 100.0	439 12.5	633 18.1	964 27.5	495 14.1	261 7.5	224 6.4	439 12.5	47 1.3
	非該当層	9,927 100.0	1,025 10.3	1,745 17.6	2,851 28.7	1,423 14.3	762 7.7	607 6.1	1,338 13.5	176 1.8
世帯累計別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	590 100.0	84 14.2	119 20.2	177 30.0	70 11.9	28 4.7	40 6.8	63 10.7	9 1.5
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	964 100.0	126 13.1	165 17.1	280 29.0	125 13.0	66 6.8	62 6.4	123 12.8	17 1.8
	その他の世帯	13,314 100.0	1,458 11.0	2,383 17.9	3,788 28.5	1,880 14.1	1,012 7.6	818 6.1	1,756 13.2	219 1.6

図表 5-5-1 この一か月に読んだ本の数（小5・中2 生活困難層別）

(単位 上段：世帯 下段：%)		調査数	読まな かった	1冊	2～3冊	4～5冊	6～7 冊	8～ 11冊	12冊 以上	無回答
子どもの年齢×生活困難層	小学5年生の 生活困難層	797 100.0	119 14.9	130 16.3	195 24.5	87 10.9	65 8.2	69 8.7	116 14.6	16 2.0
	小学5年生の 非生活困難層	7,642 100.0	788 10.3	927 12.1	1,804 23.6	1,237 16.2	752 9.8	632 8.3	1,367 17.9	135 1.8
	中学2年生の 生活困難層	642 100.0	85 13.2	159 24.8	235 36.6	70 10.9	18 2.8	20 3.1	49 7.6	6 0.9
	中学2年生の 非生活困難層	5,787 100.0	676 11.7	1,451 25.1	2,011 34.8	681 11.8	271 4.7	199 3.4	410 7.1	88 1.5

あなたが頑張っていることは何ですか。(複数回答)

(小学2年生 小学5年生 中学2年生 小学2年生保護者 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

図表 5-6-1 今がんばっていること（中2）

(単位 上段：世帯 下段：%)		調査数	学校での 勉強	部 活	スポーツや習い 事 部活以外の	趣 味	ほかにがんばって いることがある	がんばっている ことはない	無 回 答
全 体		6,429 100.0	3,108 48.3	4,420 68.8	1,377 21.4	2,246 34.9	753 11.7	218 3.4	95 1.5
生活 困難 層別	生活困難層	642 100.0	259 40.3	441 68.7	107 16.7	231 36.0	78 12.1	30 4.7	8 1.2
	中間層	1,457 100.0	651 44.7	993 68.2	257 17.6	524 36.0	182 12.5	54 3.7	19 1.3
	非該当層	4,330 100.0	2,198 50.8	2,986 69.0	1,013 23.4	1,491 34.4	493 11.4	134 3.1	68 1.6
世帯 累計別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	285 100.0	105 36.8	194 68.1	51 17.9	101 35.4	36 12.6	13 4.6	5 1.8
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	466 100.0	212 45.5	307 65.9	83 17.8	162 34.8	46 9.9	20 4.3	6 1.3
	その他の世帯	5,678 100.0	2,791 49.2	3,919 69.0	1,243 21.9	1,983 34.9	671 11.8	185 3.3	84 1.5

図表 5-6-2 今がんばっていること（小5）

単位 上段：世帯 下段：%		調査数	学校での 勉強	ス ポ ー ツ や 習 い 事	趣 味	ほかにがんばって いることがある	がんばっている ことはない	無 回 答
全 体		8,439 100.0	4,311 51.1	5,537 65.6	2,985 35.4	1,850 21.9	225 2.7	161 1.9
生活 困難 層別	生活困難層	797 100.0	389 48.8	400 50.2	279 35.0	151 18.9	30 3.8	19 2.4
	中間層	2,045 100.0	1,015 49.6	1,298 63.5	713 34.9	437 21.4	77 3.8	30 1.5
	非該当層	5,597 100.0	2,907 51.9	3,839 68.6	1,993 35.6	1,262 22.5	118 2.1	112 2.0
世帯 累計別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	305 100.0	162 53.1	153 50.2	115 37.7	57 18.7	6 2.0	7 2.3
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	498 100.0	241 48.4	290 58.2	188 37.8	140 28.1	20 4.0	10 2.0
	その他の世帯	7,636 100.0	3,908 51.2	5,094 66.7	2,682 35.1	1,653 21.6	199 2.6	144 1.9

お子さんが落ち着いて勉強できる環境がありますか。

(小学2年生 小学5年生 中学2年生 **小学2年生保護者** **小学5年生保護者** **中学2年生保護者**)

図表 5-7 子どもの勉強環境

単位	上段：世帯 下段：%	調査数	ある	ない	無回答
全 体		19,674 100.0	17,138 87.1	2,191 11.1	345 1.8
子どもの年齢	小学2年生	4,806 100.0	4,159 86.5	551 11.5	96 2.0
	小学5年生	8,439 100.0	7,373 87.4	955 11.3	111 1.3
	中学2年生	6,429 100.0	5,606 87.2	685 10.7	138 2.1
生活困難層別	生活困難層	1,868 100.0	1,418 75.9	428 22.9	22 1.2
	中間層	4,730 100.0	4,004 84.7	684 14.5	42 0.9
	非該当層	13,076 100.0	11,716 89.6	1,079 8.3	281 2.1
世帯累計別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	741 100.0	570 76.9	164 22.1	7 0.9
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	1,186 100.0	1,004 84.7	157 13.2	25 2.1
	その他の世帯	17,747 100.0	15,564 87.7	1,870 10.5	313 1.8

図表 5-7-1 子どもの勉強環境（生活困難層別）

(単位)	上段：世帯 下段：%)	調査数	問 27 子どもの勉強環境		
			ある	ない	無回答
子どもの年齢×生活困難層	小学2年生の生活困難層	429 100.0	335 78.1	88 20.5	6 1.4
	小学2年生の非生活困難層	4,377 100.0	3,824 87.4	463 10.6	90 2.1
	小学5年生の生活困難層	797 100.0	608 76.3	183 23.0	6 0.8
	小学5年生の非生活困難層	7,642 100.0	6,765 88.5	772 10.1	105 1.4
	中学2年生の生活困難層	642 100.0	475 74.0	157 24.5	10 1.6
	中学2年生の非生活困難層	5,787 100.0	5,131 88.7	528 9.1	128 2.2

お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいですか。

(小学2年生 小学5年生 中学2年生 **小学2年生保護者** **小学5年生保護者** **中学2年生保護者**)

図表5-8 希望する子どもの進学段階

単位	上段：世帯 下段：%	調査数	中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	又はそれ以上 四年制大学	まだわからない	その他	無回答
全体		19,674 100.0	41 0.2	1,966 10.0	455 2.3	696 3.5	1,499 7.6	9,736 49.5	4,822 24.5	129 0.7	330 1.7
子どもの年齢	小学2年生	4,806 100.0	5 0.1	365 7.6	120 2.5	166 3.5	330 6.9	2,357 49.0	1,343 27.9	24 0.5	96 2.0
	小学5年生	8,439 100.0	24 0.3	766 9.1	174 2.1	283 3.4	649 7.7	4,322 51.2	2,049 24.3	57 0.7	115 1.4
	中学2年生	6,429 100.0	12 0.2	835 13.0	161 2.5	247 3.8	520 8.1	3,057 47.6	1,430 22.2	48 0.7	119 1.9
生活困難層別	生活困難層	1,868 100.0	12 0.6	416 22.3	84 4.5	67 3.6	185 9.9	504 27.0	572 30.6	15 0.8	13 0.7
	中間層	4,730 100.0	10 0.2	696 14.7	173 3.7	202 4.3	505 10.7	1,742 36.8	1,352 28.6	31 0.7	19 0.4
	非該当層	13,076 100.0	19 0.1	854 6.5	198 1.5	427 3.3	809 6.2	7,490 57.3	2,898 22.2	83 0.6	298 2.3
世帯累計別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	741 100.0	6 0.8	168 22.7	36 4.9	27 3.6	87 11.7	198 26.7	210 28.3	6 0.8	3 0.4
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	1,186 100.0	5 0.4	153 12.9	33 2.8	49 4.1	128 10.8	506 42.7	276 23.3	17 1.4	19 1.6
	その他の世帯	17,747 100.0	30 0.2	1,645 9.3	386 2.2	620 3.5	1,284 7.2	9,032 50.9	4,336 24.4	106 0.6	308 1.7

図表5-8-1 希望する子どもの進学段階（生活困難層別）

(単位 上段：世帯 下段：%)	調査数	希望する子どもの進学段階									
		中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	それ以上 または 四年制大学	わからない まだ	その他	無回答	
子どもの年齢×生活困難層	小学2年生の 生活困難層	429 100.0	1 0.2	70 16.3	16 3.7	22 5.1	45 10.5	102 23.8	166 38.7	3 0.7	4 0.9
	小学2年生の 非生活困難層	4,377 100.0	4 0.1	295 6.7	104 2.4	144 3.3	285 6.5	2,255 51.5	1,177 26.9	21 0.5	92 2.1
	小学5年生の 生活困難層	797 100.0	9 1.1	173 21.7	33 4.1	25 3.1	82 10.3	209 26.2	255 32.0	6 0.8	5 0.6
	小学5年生の 非生活困難層	7,642 100.0	15 0.2	593 7.8	141 1.8	258 3.4	567 7.4	4,113 53.8	1,794 23.5	51 0.7	110 1.4
	中学2年生の 生活困難層	642 100.0	2 0.3	173 26.9	35 5.5	20 3.1	58 9.0	193 30.1	151 23.5	6 0.9	4 0.6
	中学2年生の 非生活困難層	5,787 100.0	10 0.2	662 11.4	126 2.2	227 3.9	462 8.0	2,864 49.5	1,279 22.1	42 0.7	115 2.0

どの段階まで進学したいですか。

(小学2年生 小学5年生 **中学2年生** 小学2年生保護者 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

図表5-9 希望する進学段階

単位 上段：世帯 下段：%		調査数	中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	四年制大学	まだわからない	無回答
全体		6,429 100.0	19 0.3	973 15.1	165 2.6	291 4.5	793 12.3	2,036 31.7	1,978 30.8	174 2.7
生活困難層別	生活困難層	642 100.0	2 0.3	161 25.1	32 5.0	31 4.8	90 14.0	120 18.7	193 30.1	13 2.0
	中間層	1,457 100.0	5 0.3	282 19.4	38 2.6	69 4.7	225 15.4	327 22.4	473 32.5	38 2.6
	非該当層	4,330 100.0	12 0.3	530 12.2	95 2.2	191 4.4	478 11.0	1,589 36.7	1,312 30.3	123 2.8
世帯累計別	ひとり親(母親のみ) 世帯の生活困難層	285 100.0	- -	67 23.5	21 7.4	11 3.9	47 16.5	54 18.9	79 27.7	6 2.1
	ひとり親(母親のみ) 世帯の非生活困難層	466 100.0	2 0.4	84 18.0	13 2.8	22 4.7	64 13.7	135 29.0	134 28.8	12 2.6
	その他の世帯	5,678 100.0	17 0.3	822 14.5	131 2.3	258 4.5	682 12.0	1,847 32.5	1,765 31.1	156 2.7

【詳細分析 4】

困難を抱える子どもの姿－保護者の悩みと子どもの登校意欲－

1 保護者が悩んでいること

本分析では、「困難を抱える子ども」を、不登校、いじめ、病気や障がい等とし、本調査データから見えてくる困難を抱える子どもをめぐる状況を整理し、対応のヒントを見出したい。特に「不登校」に関しては、文部科学省「平成 29 年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」（平成 30 年 10 月 25 日）によれば、全国の国立・公立・私立小学校、中学校、特別支援学校における不登校児童生徒数は、約 14 万 4 千人、長期欠席者は 21 万 7 千人に上る。また、2013 年度より、全国の不登校児童生徒数は増加し続けている。こうした不登校の現状に対する対応に寄与できる知見を、本調査結果から見出したい。

従ってこの詳細分析 4 では、特に図表 5-1 および図表 5-1-1 に関わって、通学意欲に関する分析を中心に検討を進める。この図表は「通学することが楽しみですか」との問いに「とてもそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「思わない」の 4 件法で回答する質問になっている。ここでは、この質問を「登校意欲」に関する質問ととらえ、分析、考察を進める。

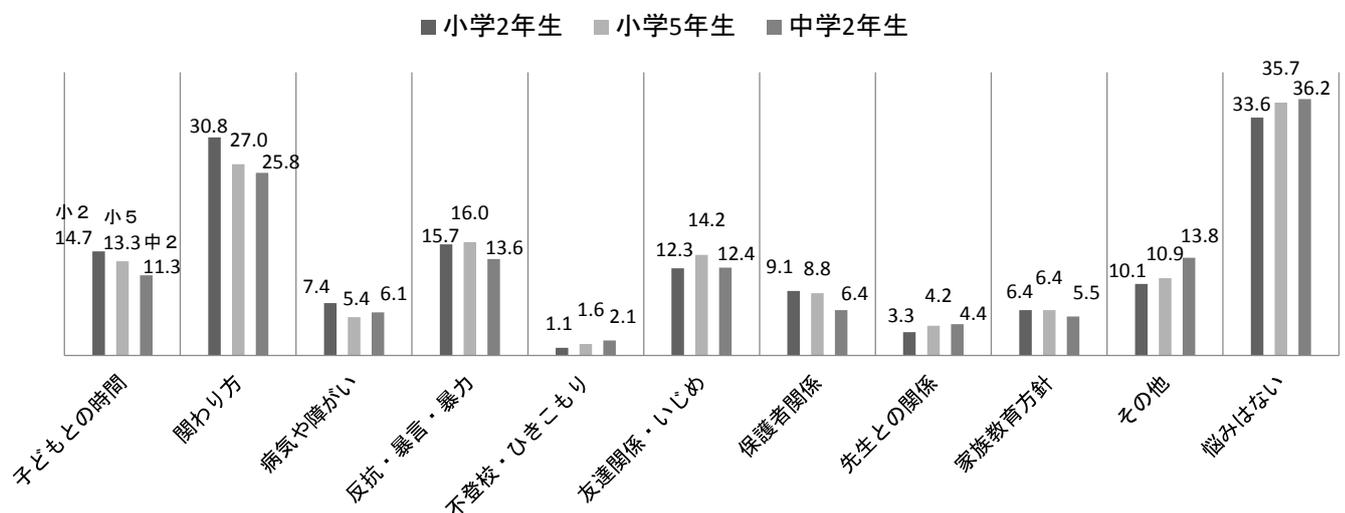
まずは、保護者の中で「不登校」を含めた「困難を抱える子ども」について、どのような悩み事がどの程度表出しているのかを整理する。

保護者への質問「1 子育て支援に関する事業の利用状況」の問 2 では、「子ども（兄弟姉妹を含む）のことで悩んでいること」を質問している。（図表 7-1）

この質問項目は、小 2、小 5、中 2 の子どもを持つ保護者に対して、同じ質問をしているため、学年間の変化を見ることが出来る。質問項目は次のようになる。（ ）内は、図表化するために略記する際の表記である。「子どもと過ごす時間が持てない（子どもとの時間）」「子どもとの関わり方（関わり方）」「子どもの病気や障がい（病気や障がい）」「子どもの反抗や暴言・暴力（反抗・暴言・暴力）」「子どもの不登校やひきこもり（不登校・ひきこもり）」「子どもの友達関係やいじめ（友達関係・いじめ）」「他の保護者との関係（保護者関係）」「学校の先生との関係（先生との関係）」「家族間での教育方針の違い（家庭教育方針）」「その他」「特に悩みはない（悩みはない）」

無回答を除いた回答の全体は以下の図表 S4-1 のようになる。

図表 S4-1 保護者が子どものことで悩んでいること

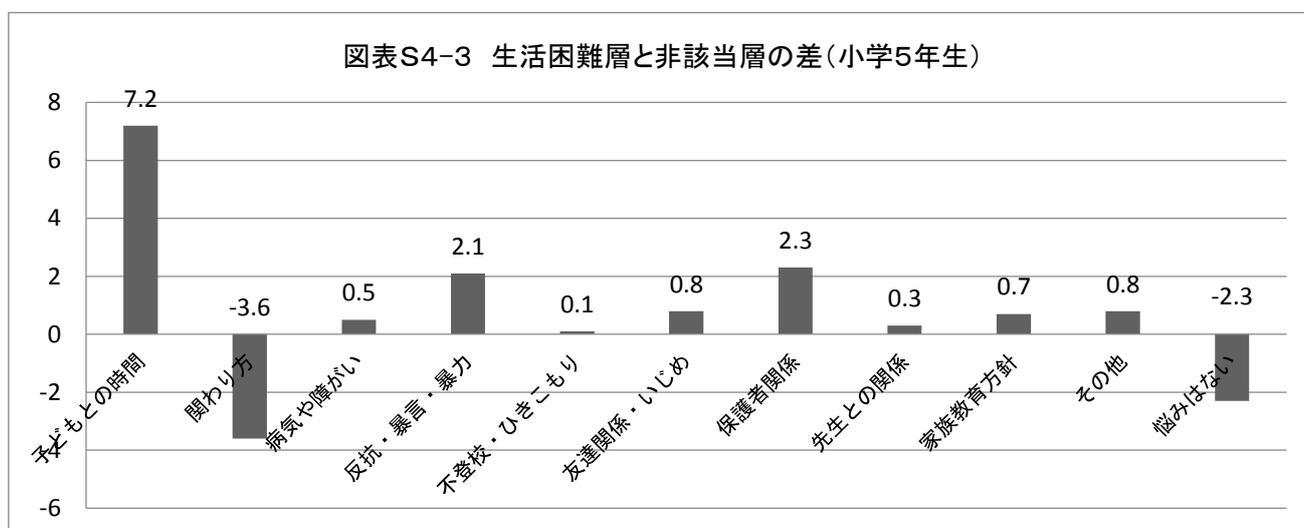
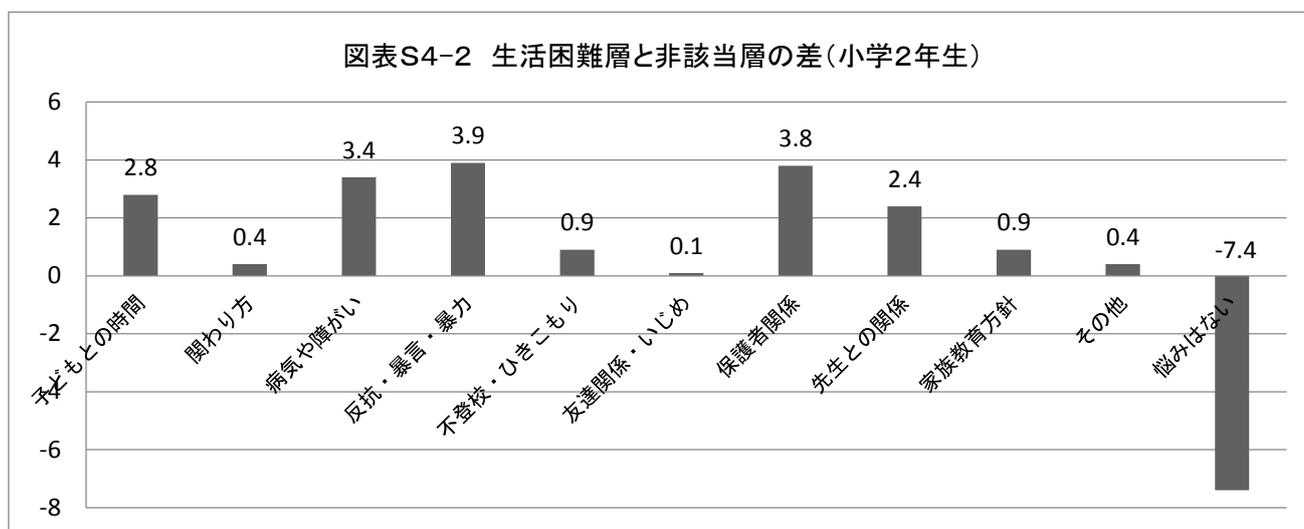


保護者にとって、子どもとの「関わり方」は、全学年を通じて割合の高い項目であり、約25%~30%の保護者が悩んでいる。

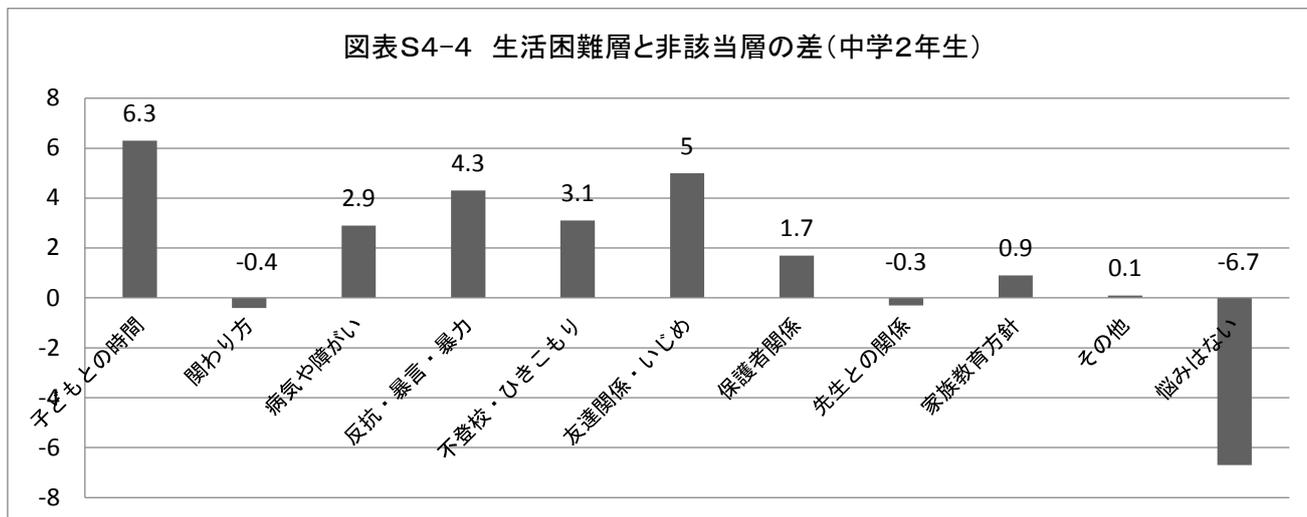
学年別の特徴を見ると、学年が上がるに従って割合が減少するのが「子どもとの時間」と「関わり方」であった。逆に学年が上がるに従って割合が上昇し、中学2年生が最も高い割合となるのが、「不登校・ひきこもり」と「先生との関係」であった。その他の項目で小学2年生が最も高いのが「病気や障がい」「保護者関係」、小学5年生が最も高いのが「反抗・暴言・暴力」「友達関係・いじめ」であった。これらは、それぞれの学年・年齢の発達課題や生徒指導上の現状を反映している。特に不登校やいじめについては、文部科学省が公表しているデータのいじめの認知件数や不登校の出現率と重なっている。

2 生活困難層と非該当層の構成割合の開きから見えてくる課題

次に生活困難層と非該当層の構成割合の開きに注目してみたい。以下の図は、2つの層の構成割合の差を、学年ごとに集計したものである。縦軸+は生活困難層の方が構成割合は高く、-は生活困難層の方が構成割合は低いものを表している。



図表S4-4 生活困難層と非該当層の差(中学2年生)



全学年を通じて「悩みはない」に関しては、生活困難層の方が構成割合は低い。つまり、生活困難層の方が、どの学年でも子どものことでの悩みを持つ割合が高く、小学2年生の開きが最も大きい。

学年によって変化する特徴も見えてくる。小学5年生では、保護者の悩みは小学2年生と比較して、全体的に2つの層の開きは縮まる。ただし、「関わり方」については逆転し、非該当層よりも生活困難層の方が低い構成割合になる。また、「子どもとの時間」はやや差が広がっている他、「友達関係・いじめ」がわずかに0.7ポイントであるが差が広がり、生活困難層の方が増加している傾向が見られた。

小学5年生と中学2年生を比較すると、差が大きくなる項目が目立つ。特に、「子どもの病気や障がい（病気や障がい）」「子どもの反抗や暴言・暴力（反抗・暴言・暴力）」「子どもの不登校やひきこもり（不登校・ひきこもり）」「子どもの友達関係やいじめ（友達関係・いじめ）」といった項目が顕著である。抽象的な悩みよりも、学校生活上の問題行動を含む、具体的な事項で急激に差が拡大していることが分かる。

以上のように見えてくると、小学校段階では、子どものことでの悩みに関しては、生活困難層と非該当層間で、多少の開きがすでにある。特に「子どもの反抗や暴言・暴力」「他の保護者との関係」「子どもの病気や障がい」に関しては、3ポイント以上の開きがある。しかし、小学2年生から小学5年生にかけては差が縮まるものの、中学生になると、障がいや暴力、不登校、いじめ等、困難を抱える子どもに関する悩みは、2つの層での構成割合の開きが大きくなり、生活困難層の方が相対的に悩みが増加していることが分かる。

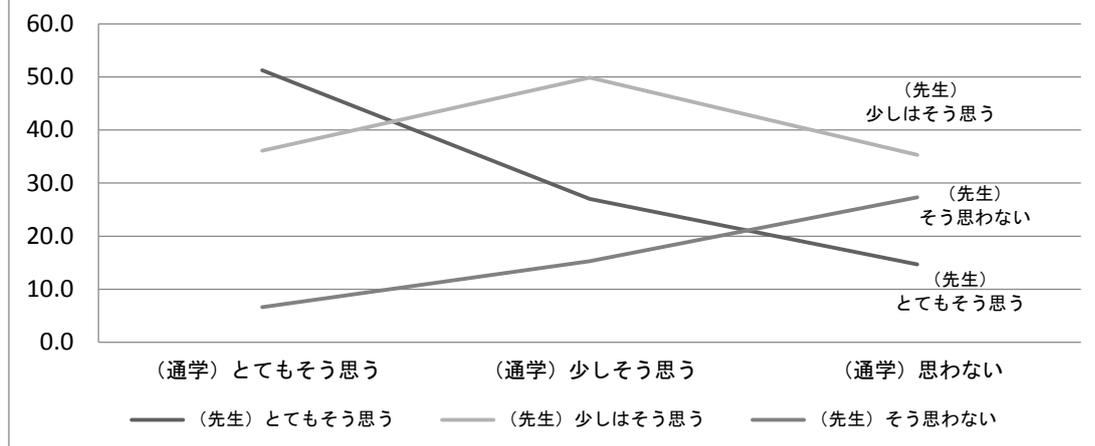
一方、学年が上がるに従って、差が縮まり、中学2年生ではわずかながら構成割合が逆転する項目もあった。「先生との関係」である。大きな開きではないものの、これは生活困難層の方が徐々に「先生との関係」は悩み事ではなくなっていく傾向があるとも読める。裏返せば、子どものことで悩むことが増える分、学校の先生への信頼度が上がっている兆候とも考えられる。

3 教師と子どもの関係と登校意欲

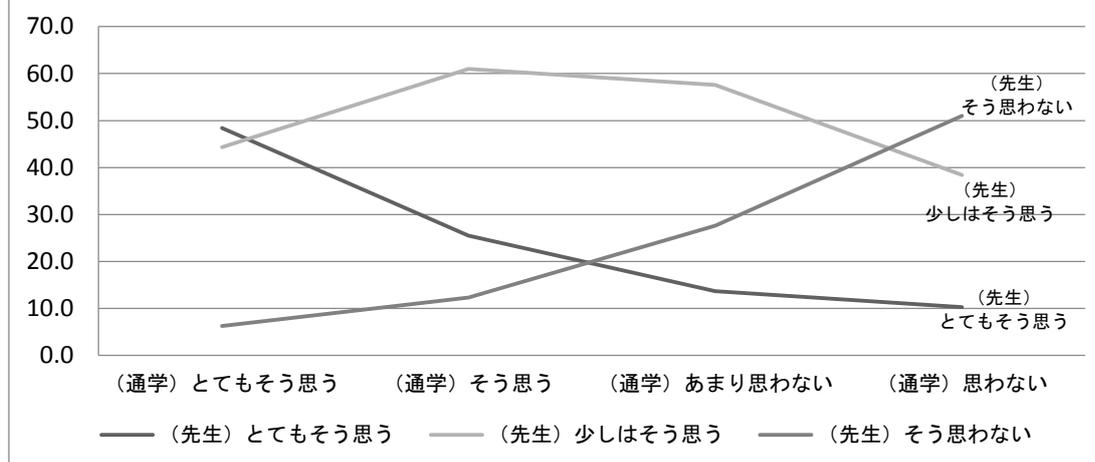
教師と子どもの関係はどのような形で登校意欲に関係してくるのだろうか。本調査では、「学校の先生からよいところを認められている」という質問を、小学5年生と中学2年生本人に対して行っている。その回答と登校意欲に関する質問項目をクロス集計すると、図表S4-5、S4-6のようになった。

(先生)は、「学校の先生からよいところを認められている」という質問の回答、(通学)は、「学校に行くのは楽しみですか」という質問の回答である。

図表S4-5 小学5年生 先生からの認められ感と登校意欲



図表S4-6 中学2年生 先生からの認められ感と登校意欲



先生から、とても認められていると感じている児童等の折れ線が右肩下がり、そうは思わないと感じている児童等が右肩上がりだということが、はっきりと見えてくる。つまり、とても認められていると感じた児童等の登校意欲が高く、そうは思わない児童等の登校意欲は低いという傾向が分かる。

4 登校意欲と休日の過ごし方

本調査では、休日の過ごし方について、小学5年生と中学2年生に質問をし、10通りの過ごし方について「多い」「多くない・まったくない」のどちらかを選択回答してもらった。この結果と、登校意欲「通学することが楽しみ」をクロス集計したところ、一定の傾向が見えてきた。

登校意欲が最も低い回答の割合が高かった過ごし方は、割合の順位で、1. ショッピングセンターやファストフード店でひとりで過ごす (11.37%) 2. 公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで過ごす (9.18%) 3. 自分の家でひとりで過ごす (7.96%) という結果だった。

登校意欲が最も低い回答の割合が低かった過ごし方は、割合の順位で、1. 習い事 (スポーツ・音楽・習字・英語など) で先生や友達と過ごす (4.57%) 2. テーマパークや観光地に、家族と出かける (4.59%) 3. 自分の家で家族と過ごす (4.69%) という順位だった。

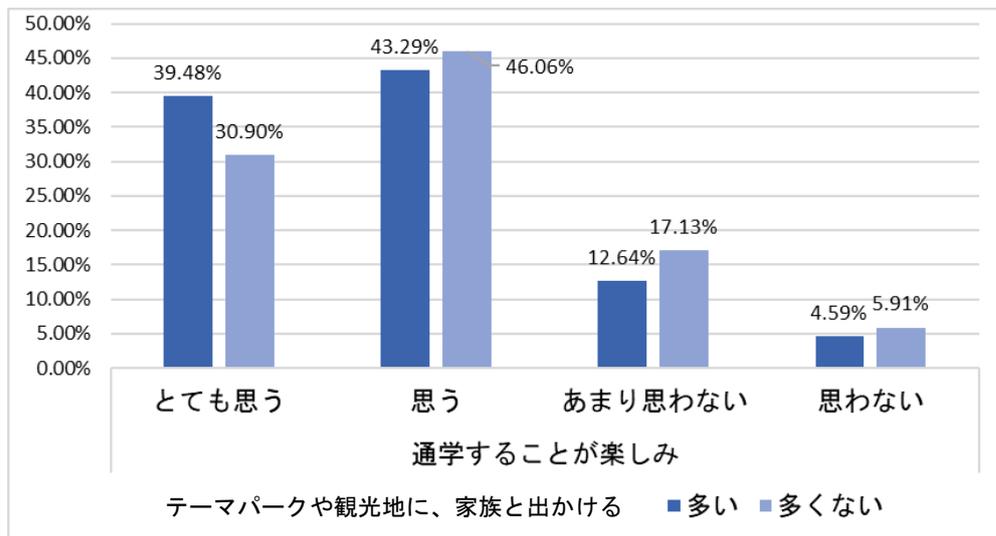
一方、登校意欲が最も高い回答の割合が高かった過ごし方は、割合の順位で、1. テーマパークや観光地に、家族と出かける (39.48%) 2. 公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと過ごす (39.25%)

3. 学習塾で先生や友達と過ごす (38.46%) という結果だった。

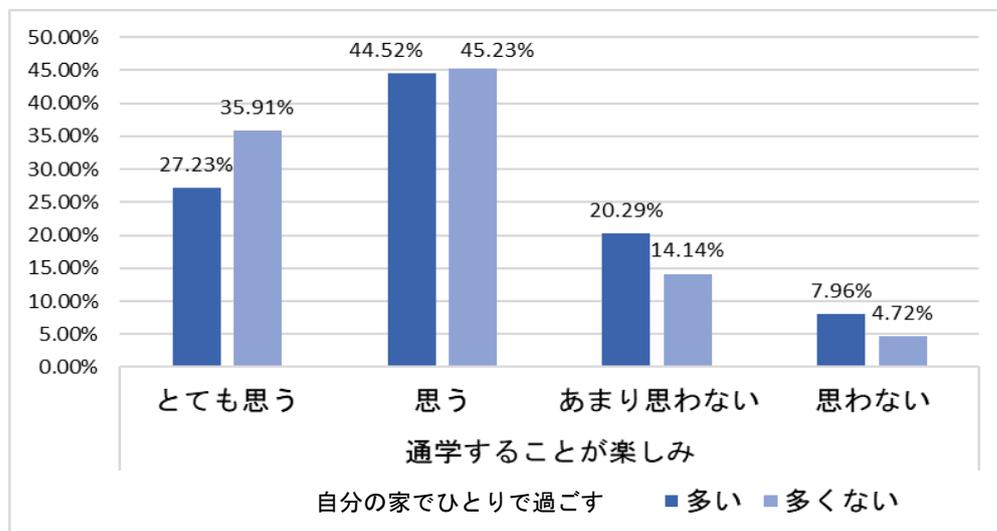
登校する意欲が最も高い回答の割合が低かった過ごし方は、割合の順位で、1. 自分の家でひとりで過ごす (27.23%) 2. ショッピングセンターやファストフード店でひとりで過ごす (31.76%) 3. 公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで過ごす (34.35%) という結果だった。

対照的な結果となった「テーマパークや観光地に、家族と出かける子どもの登校意欲」と「自分の家でひとりで過ごす子どもの登校意欲」は、次の図表 S4-7、S4-8 のようになる。

図表S4-7 テーマパークや観光地に、家族と出かける子どもの登校意欲



図表S4-8 自分の家でひとりで過ごす子どもの登校意欲



以上の結果から、気になる子どもの生活をまとめると、テーマパークや観光地に家族と出かける子どもの登校意欲は、相対的に高いことが分かる。今回の調査では自然の中での活動（例えば野外キャンプや星空の観察、バーベキュー等）がどのように影響しているかは分からなかったが、こうした野外活動や旅行経験、映画鑑賞等の文化的活動等も加えて、家の外でのどのような経験が登校意欲を高めるのか、調査、検討の余地は十分にあると思われる。

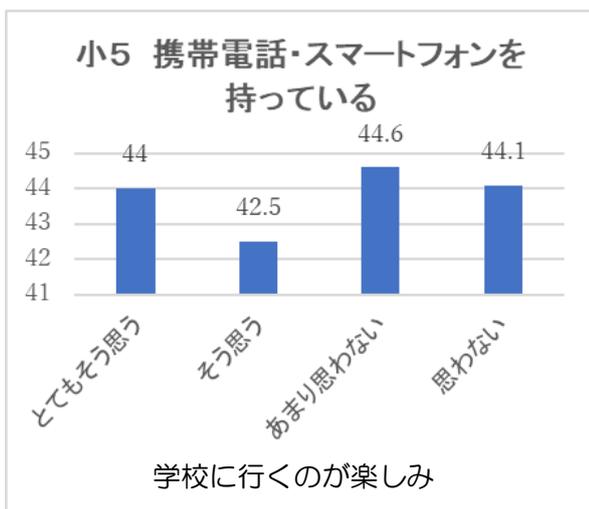
また、興味深かったのは、公園や児童館・児童センター、図書館で過ごすことが、ひとりの時と友達などと過ごす場合では、登校意欲との関係ではかなり異なる結果となった。家での過ごし方も同様で、ひとりの時と家族と一緒に過ごす時では大きな差があることが示された。

5 登校意欲と携帯電話・スマートフォン

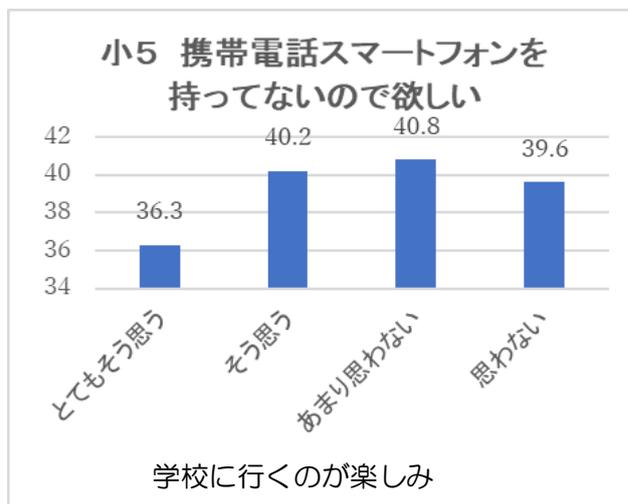
登校意欲と携帯電話・スマートフォンの関係は、近年様々な場面で問題が指摘されている。本調査では、小学5年生の所持率が43.2%、中学2年生の所持率が70.3%であった。（図表1-1-1-5）

このデータと登校意欲「学校に行くのが楽しみ」という質問をクロス集計したところ、以下の図のような結果となった。所持率によって、以下の図表中の割合が変化するので、パーセント表示の多い少ないで判断はできないが、カテゴリー間の構成割合から見てくることがある。

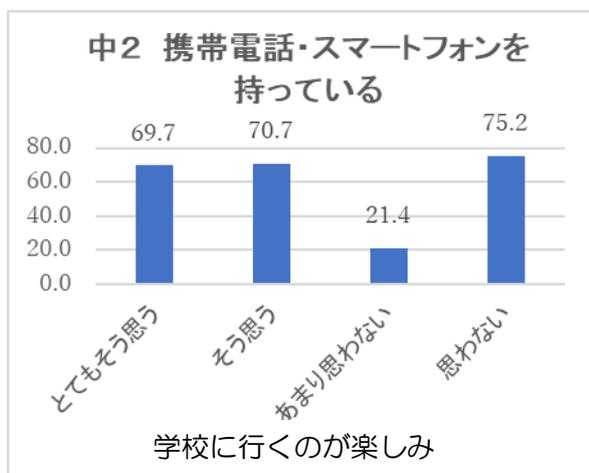
図表S4-9 携帯・スマホと登校意欲(1)



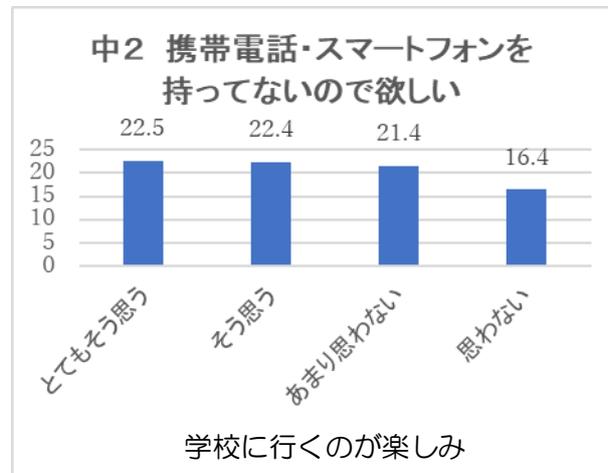
図表S4-10 携帯・スマホと登校意欲(2)



図表S4-11 携帯・スマホと登校意欲(3)



図表S4-12 携帯・スマホと登校意欲(4)



第1の特徴が、小学5年生では「携帯電話・スマートフォンを持っていないので欲しい」と「持っている」児童を比較すると、「学校に行くのが楽しみですか」という質問に、「とてもそう思う」と回答した子どもの構成割合に差があることが分かる。持っていないので欲しいと思っている児童の方が登校意欲が相対的に低い可能性が示唆される。小学5年生段階では携帯電話・スマートフォンを持っていないと、通学することをとても楽しいとは思えなくなる層が存在しているとも考えられる。

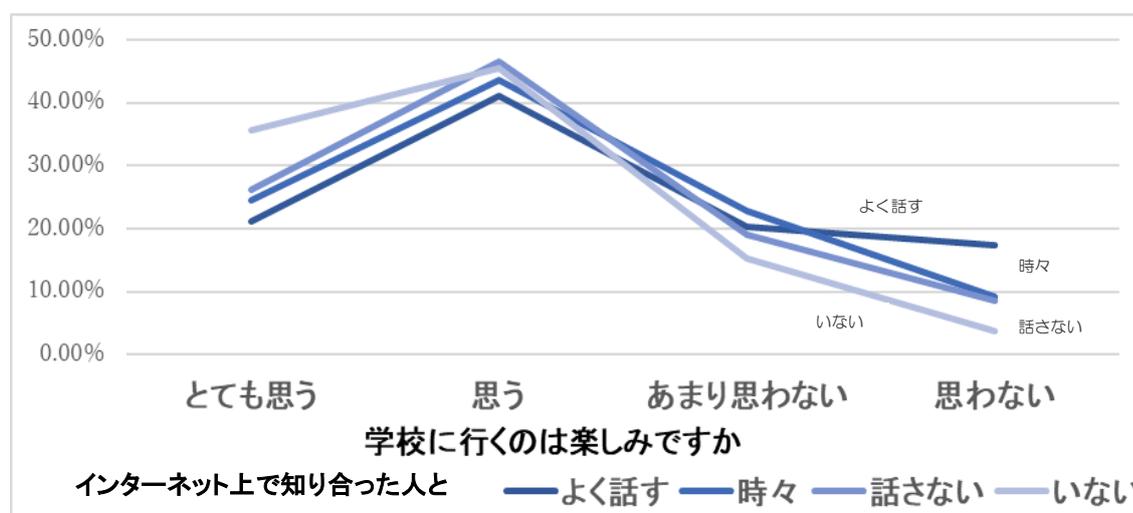
第2の特徴が、中学2年生では、携帯電話・スマートフォンを持っている方が「学校に行くのが楽しみですか」という質問に、「思わない」と回答している構成割合が相対的に高い点である。加えて、「あまり思わない」という回答が極めて低い構成割合となっていることも特徴的である。つまり、はっきりと、学校に行くのは楽しみではないと思う層が多いことが分かる。

第3の特徴が、中学2年生では携帯電話・スマートフォンを持っていない方が、「学校に行くのが楽しみですか」という質問に「思わない」と回答する割合が低く、「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が、わずかではあるが、最も高い構成割合になっている点である。

携帯電話やスマートフォンの使い方やSNS、アプリの活用程度等、様々なファクターで考察することが必要なので、一概には結論を出せないが、本調査からは以上のような考察ができる。

一方、携帯電話やスマートフォンに関しては、登校意欲だけでなく、それらを介した様々な問題が指摘され、インターネット上のトラブルが問題視されるようになってきた。図S4-13は、中学2年生を対象にした質問項目にある、困りごとや悩みごとなどの相談相手として「インターネット上で知り合った人」と話す頻度と登校意欲の関係を見たものである。

図表S4-13 インターネット上の相談相手と登校意欲



「学校に行くのが楽しみですか」との質問に「とてもそう思う」と回答した割合がはっきりと高かったのが、インターネット上で知り合った相談相手はいない、と回答している生徒であった。一方、登校意欲が最も低いと思われる「思わない」の回答がはっきりと高い割合を示したのが、インターネット上の知り合いとよく話すと回答している生徒であった。インターネット上の親密な関係が、登校意欲に関係していることを示唆する結果となった。

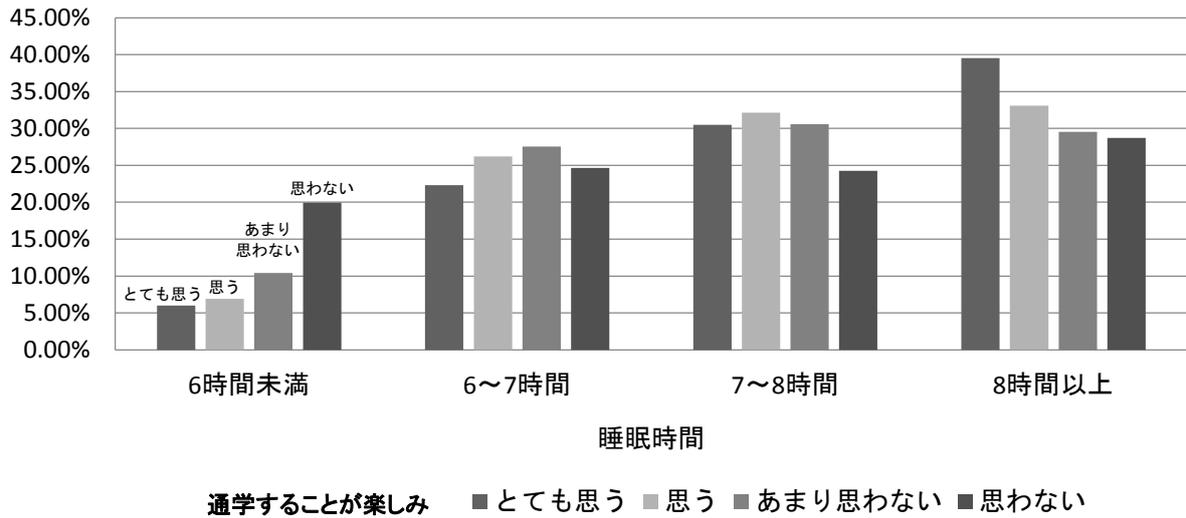
6 生活習慣と登校意欲

本調査では、生活習慣と登校意欲の関係でも、興味深い結果を得ることができた。睡眠時間および食事と登校意欲には何らかの関係があることが示唆された。

まず、睡眠時間と登校意欲の関係を見るために、小学5年生と中学2年生の通学日の睡眠時間（図表2-2-1）と登校意欲をクロス集計した結果が次の図表S4-14である。

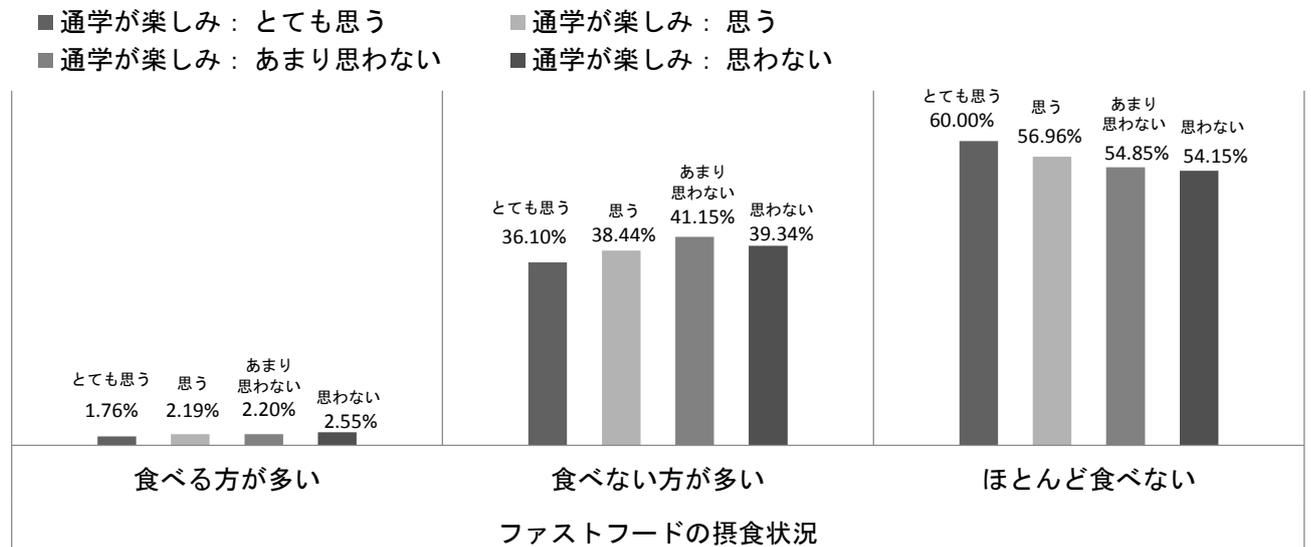
睡眠時間が6時間以内の児童等は右肩上がりで、登校意欲が低下している様子が分かる。6～7時間は、やや右肩上がりであるが睡眠時間が6時間以内の児童等ほどの差はない。7～8時間はやや右肩下がり、8時間以上は、はっきりと右肩下がりであった。つまり登校意欲と睡眠時間の関係は強く、8時間以上の睡眠時間をとっている児童等は、学校に通学することがとても楽しいと回答している割合が最も高い結果となった。

図表S4-14 睡眠時間と登校意欲



次に、食事と登校意欲の関係を見るために、小学2年生、小学5年生、中学2年生を対象として調査した、給食以外の各食品の摂食状況と登校意欲をクロス集計した結果、ファストフードと登校意欲の関係に顕著な傾向が見られた。回答の割合が1%未満だった「毎日食べる」を除いて集計した結果、図表S4-15のようになった。

図表S4-15 ファストフードと登校意欲



ファストフードを「ほとんど食べない」と回答した児童等のはっきりと右肩下がり、「学校に行くのが楽しみですか」の質問に「とてもそう思う」と回答した児童等の構成割合が最も高い。つまり、ファストフードを「ほとんど食べない」と回答した児童等の登校意欲は、相対的に高いのではないかとこの仮説が成り立つ。一方、ファストフードを「食べない方が多い」「食べる方が多い」と回答した児童等は、総じて右肩上がりであり、登校意欲と食の関係に大きな示唆を与える結果となった。